

全国農政連推薦・農政連公認 参議院議員藤木しんやの

永田町でも**百姓宣言**

【令和6年能登半島地震視察】

2月7-8日の2日間、石川県能登半島を中心に地震の視察を行いました。6JA（JA石川かほく・JAはくい・JA志賀・JA能登わかば・JAのと・JA内浦町）に同じ組合長や役員の方々と意見交換させて頂き、2牧場（ホリ牧場 能登牧場）、被災地7力所（増穂R.C・正院地区・輪島朝市通り・鴨ヶ浦地区等）を視察いたしました。

道路事情により、金沢のホテルからJAのとまで片道3時間以上かかる中、石川県中央会のご案内により、今回の視察が実現いたしました。この場をお借りし、改めて御礼申し上げます。

組合長や役員の方々は、国の補助に加え、市町村負担割合が不透明な中（正時）、ごまで前向きに支援パッケージを活用すべきか等、不安の声を伺いました。岸田首相の通常国会施政方針演説「できることは全てやる」という発言に象徴されるように、私からは、復興・復旧に向け、組合員の皆さまを励ましながら取り組みを進めて欲しい旨、お伝えいたしました。

また、JA能登わかばの生産組合長会議では、罹災証明書が家屋以外の納屋や農業倉庫等で発行してもらえない、ご要望を頂きました。私自身熊本地震の経



▲JA内浦町神田組合長との意見交換

験者として、罹災証明の発効は固定資産台帳に記録されている全建物が対象であり、自治体の判断が間違っている可能性がある旨お伝えし、早急に現場の混乱を解消することができました。

地理的条件不利地かつ、高齢化も深刻で海底隆起が発生する等、復興への道のりは困難が伴うものと想像に難くありません。しかし、このような時こそ、我々協同組合の力を発揮し、復興に向けて歩みをすすめる必要があります。

実際に、JAグループ石川の皆さまは、東日本大震災を経験された宮城県・福島県に視察入りされ、財務への影響や震災後のJA事業の変化、所在不明となった組合員への手続きなど情報共有がなされたそうです。息の長い支援に向けて、引き続き国政の場で取り組みを進めて参ります。

【第27回参議院議員代表推薦候補者】

2月9日に全国農政連主催合同会議が開催され、候補者の所信表明がなされました。千葉県農政推進連盟推薦石井孝明氏、北海道農協政治連盟推薦東野秀樹氏、両名の予備投票が3月6日まで行われ、翌7日代表者会議の場で、組織全体の意思確認がなされます。

私はあくまで公平・中立な立場ですが、どちらの候補に決定しても、同じ組織の代表として、ともに地域の農業振興とわが国の食と緑と水を守るため、現場からの要望実現に努めて参ります。



▲JA能登わかば和倉地区生産組合長会議

全国・農政連推薦 参議院議員山田としおの 農政問題に斬り込む

【コメの需給調整と基本法の改正】

主食たるコメの需給調整について、規制改革推進会議が主張してきたような「自由な生産・流通・販売」の推進では、JAや地域や農業者自身が結果責任を負うことになってしまいかねず、心配です。コメの需給調整だけでなく、農村社会の抱えている課題は、市場原理・競争原理だけでは解決できません。コメに代えて何を作るか、どのように農地を活かして所得を実現するかなど、地域の実情をいちばんよくわかっているJA

が中心となつて協同の取り組みを呼びかけていくことが必要です。今国会で審議される基本法の改正案には、JAなど関係団体が、食料・農業・農村の維持・発展に果たしている役割、その努力を国や地方公共団体が後押しすることが盛り込まれています。

【水田農業について、JAを中心に

協同の取り組みを展開しよう】

ところで、令和5年産米については、各県・各市町村・各JA、そして、各地区、営農組合、法人、生産者の皆さんの懸命のご尽力により、需給の安定に必要な面積を上回る規模での作付け転換が行われた結果、相対取引価格は、前年産を上回って推移しています。しかし、記録的な曇りや渇水

のために、1等米比率は、これまでになく低下したほか、規格外米も多く発生し、農家手取りが減少してしまつたケースも多発しました。

また、麦・大豆等の輸入依存度が高い穀物や飼料作物などの畑作物の自作化をすすめるため、「畑地化促進事業」がすすめられています。が、「主食用米に代えて何を作るか」「どう農地を活用して所得を実現するか」徹底して考えましょう。

JAとも徹底して相談する。地域の仲間の寄合や、集落の皆さんとも相談する。JAの作目部会等を中心に、地域の協同の取り組みや、JA等との連携をすすめましょう。JAには、頑張ってもらつて有利な販売戦略と、利益が上がる販売価格を実現しましょう。全力で頑張りましょう。



▲青年部のみなさんと